

市川ハイツに「AED」が設置され、 理事会メンバーらが立ち会いました。

市川ハイツに3月2日（月）、今期の2月臨時総会で決議された「AED」がA棟、B棟の玄関窓口そばに設置されました。当日、在宅の飯田副理事長ら理事会メンバーと小高防火管理者が立ち会い、セコム（SECOM）による設置作業を見守りました。

AED（エー・イー・ディとよみます）は、最近は駅や公民館、コンビニ、劇場、マンションなどでも多く設置が進んでいます。AEDは「自動対外式除細動器」のことで、突然の心停止など、「助かる命を一刻も早く」と救命措置をおこないます。救急車が来るまでの数分間に活用する医療機器です。

立ち会った理事さんからも、「もっと、AEDを身近なものに」「AEDの操作訓練が必要だね」との声も出されました。防火管理者の小高さんは、「AED」の訓練と救命救急講習会を「理事会で議論していただき、開催したい」と話しています。
(2015・3・3記)



A棟、B棟の玄関窓口そばに設置されたAEDと見守る人たち＝3月2日